

# 第6学年 道徳学習指導案

平成23年11月7日(月) 5校時  
6年1組 35名  
指導者

## 1 主題名 「かけがえのない家族」4-(5) 家族愛

資料名 「はじめてのアンカー」(出典 学研 みんなのどうとく6年)

## 2 主題について

### (1) 主題の位置とねらい

家族愛について、この期の子どもたちは、家族が自分にとって大切な存在であるということを理解している。そのため、相互に信頼関係や深い絆を結ぶために家族の一員として手伝いや家事を行ったり、家族の気持ちを理解したりしようと努力している。しかし、思春期特有の自立欲求の高まりなどに伴い家族とのふれあいが少なくなったり、理由もなく反発したりするなどの行動も見られるようになる。

本主題では、かけがえのない家族とのつながりという視点から、家族一人一人の立場や役割を多面的に考えさせ、自分が家族の支えや助けによって成長してきたことについてしっかりと理解させる。その上で、家族を思いやり、助け合って明るい家庭を築こうとする心情を養うことをねらいとした。

### (2) 指導の基本的立場

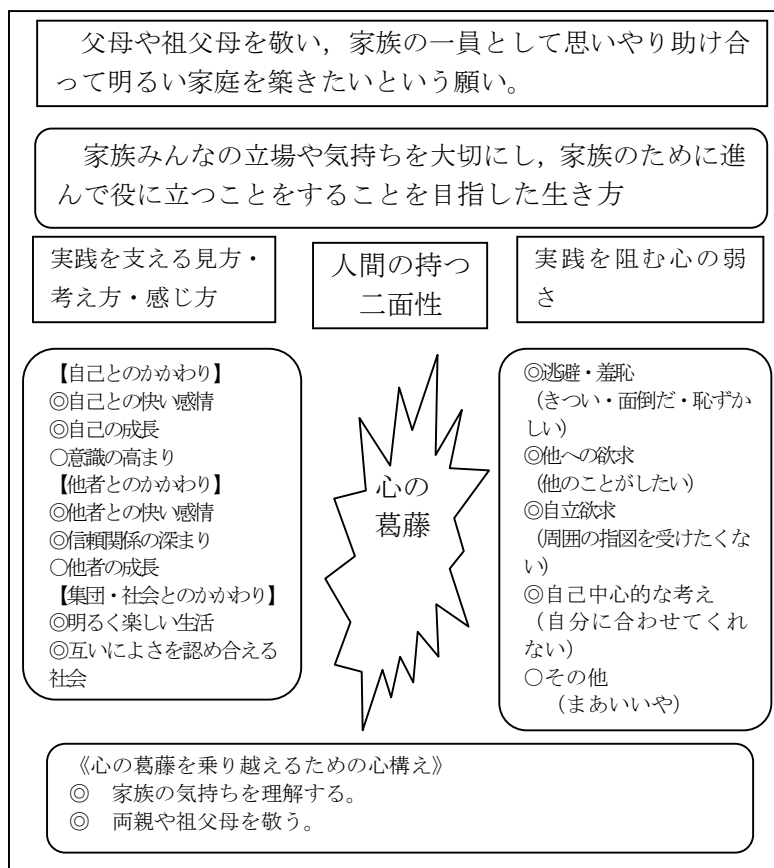
家族愛について人間の持つ二面性に着目して分析すると、右図のようになる。

子どもの人格形成の基盤には、家庭に支えられている面が大きく、家庭で身に付ける道徳性が様々な集団とのかわりの基盤にもなっていく。そのような家族一人一人についての理解を深めることが、父母や祖父母を敬愛する思いを一層強くする。また、家族の中での自分の立場や役割を知ることから、その一員として積極的に役に立とうとする精神が芽生え、家族のために役に立つ喜びが実感できるようになる。このような家族や家庭を愛する心が大切である。

また、そのことが父母や祖父母への畏敬の念を深め、家族の一員としての自覚を持って充実した家庭生活の構築につながっていくことを理解させることも大切である。

そのためには、逃避・羞恥、他への欲求、自立欲求、自己中心的な考えなどをはじめとするいろいろな心の弱さから、なかなか実践できない自分自身であることに気付かせ、さらにこれらの弱さからくる心の葛藤を乗り越えていくことが、自分自身の生き方にとって大切であることに気付かせる必要がある。

このような家族愛にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「はじめてのアンカー」(みんなのどうとく6年 学研)を取り上げる。



本資料は、小学6年生の主人公「まき」が、運動会でアンカーをつとめる姿を初めて父親に見てもらえる場面から始まる。しかし、運動会前日になり、漁師の父親が急に漁に出ないといけなくなり、子どもとの約束を裏切ってしまう。まきは初め父親の行動を許せなかったが、祖母や母との会話の中で、父親が悩んでいたことを知る。そして、父親に、晴天を祈るために作ったお天気人形を渡しに港に走っていくというあらすじである。

そこで、この資料を取り扱う際に際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、あらかじめ内容を紹介したり、録音CDを活用したりする。また、挿絵を提示することで共感的理解を深められるようにしていく。

具体的には、まず、資料の一読後の感想から、今年初めて父親が運動会に見に来てくれるまきがVサインをした場面と、父親が漁に行かなければならなくなったこと知った場面のまきの心情を対比することで、まきの心の葛藤を共感的に追求させる。

次に、心の葛藤を乗り越えるために、なぜ、まきの心がちくりと痛んだのかを考えさせ、他の人の代わりに漁に出ることにした父親の悩みを多面的に追求させる。父親の立場や気持ちも踏まえた上で、まきがお天気人形ポケットに入れて父を追いかけていった場面を焦点化し、父を追いかける場面でのまきの心情を追求させる。その際、まきの心情をグループで交流しながら考えさせることで、よりよい生き方を目指していく妨げとなる心の弱さや、そのことを乗り越えた後のよさについて、さらに深く追求させるようにする。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、家族みんなの立場や気持ちを大切に、家族のために進んで役に立つことをすることを目指した生き方について、実際の生活場面においても積極的にかかわっていかうとする意欲につながるものであると考える。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの家族愛に対する経験や意識の実態は以下のとおりである。

(平成23年10月17日実施 35名 調査方法：選択・記述併用)

〔表1〕 実践を阻む心の弱さ

心の弱さ	反応数	心の弱さ	反応数	心の弱さ	反応数
自分の思い通りにいかない	2	気持ちをうまく伝えられない	1	自分に対して冷たい	1
いらいらしていたから	1	約束・ルールをやぶった	3	うざったく感じる	1
自分のことしか考えていない	5	恥ずかしい	1		

〔表2〕 実践を支える見方・考え方・感じ方(意義・心構え)についての認識

見方・考え方・感じ方 〔対自己〕	反応数	見方・考え方・感じ方 〔対他者〕	反応数	見方・考え方・感じ方 〔対集団・社会〕	反応数
一緒にいると楽しい	4	産んで育ててくれた	6	元気に生活することが出来る	3
いやなことが忘れられる	1	家族の仕事を手伝いたい	5		
一人では生きていけない	8	困っていると助けてほしい	5		
		かけがえのない存在だから	2		
		私を大事にしてくれる	3		

〔分析・考察〕

〔表1〕から、家族愛の実践を阻む心の弱さを挙げる子どもが少ないことから、多くの子どもたちが、家族と良好な関係を持っていると考えられる。その一方で、「自分のことしか考えていない」「自分の思い通りにいかない」など、自己中心的な考えや家族との考えの行き違いから家族と対立してしまう傾向が見られる。これは、思春期特有の自立欲求から、家族に自分を認めてほしいという思いが強いと思われる。しかし、逆に見ると自分のことしか見えておらず、家族の考えや意見を理解しようとしていないと考えることもできる。また、「いらいらして」いたり、「はずかし」かったり「うざったい」「自分に対して冷たい」と感じたりするなど、実践を阻む要因として、家族との関係の中で不安や悩み、葛藤を持っている傾向も見られる。

〔表2〕からは、家族愛の実践を支える見方・考え方・感じ方として、「一緒にいると楽しい」「一人では生きていけない」など、自己にかかわる意義や心構えについて感じている子どもが多い。また、

他者に対する意義や心構えについても、感じている子どもが多い。「手伝いたい」や「困っているときに助けたい」など、家族の一員として役に立つ喜びを実感している子どもも見られる。しかし、他者とのかかわりの中での意義や心構えを持っていながら、〔表1〕のように実践を阻む自己中心的な考えを持っており、意義を持っていても実践できずに葛藤している子どもがいることが分かる。そこで、自分だけでなく家族の考えや立場を理解することが、家族の中での自分の立場や役割を知ることになり、さらには明るい家庭を築くことにつながっていくことに触れる必要がある。

一方で、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、登場人物の心情や心情の変化を読み取ったり、自分の考えを持ったりすることはできる。友達の考えを聞いて、自分の気持ちと比較して考えてみたり、自分の体験場面での内面と関係付けたりしながら見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりすることもほとんどの子どもができる。しかし、自分の考えを持って、積極的な発表が見られない。そこで、より多くの子どもたちの考えを発表・意見交換させられるような具体的な働きかけをしながら、多様な見方・考え方・感じ方に触れさせることで自分の見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりしていけるようにしたい。

#### (4) 指導上の留意点

指導にあたっては、以下のことに留意していきたい。

- ア 家族愛にかかわる生き方についての問題意識を高めるために、家族がいてよかったと思う経験と家族とうまくいかなかった経験を一覧表にまとめたものを見せる。そこで、家族は大切だという認識と、家族とうまくいかないことがあるという実態の矛盾点に気付かせる。
- イ 本資料の実践を阻む心の弱さを共感的にとらえさせるために、まきがお天気人形ポケットに入れて父を追いかけていった場面を焦点化する。その際、父が漁に出ることを知ったときにまきの心情と、祖母とかい心情を考え、互いを対比させながら話し合い活動を通して意見を交流させることで、まきの心情や心情の変化を深く追求させたい。
- ウ 実践を支える見方・考え方・感じ方についての自覚を深めるために、これまで自分に足りなかった見方等について、板書を通して気付かせる。また、この内容についてこれからの生活で「家族みんなで明るい家庭を築きたい」という実践意欲を高めるために、保護者に手紙を書く。保護者からの手紙を読むことで、家族の大切さを改めて認識し、家族の一員として家族のために役に立ちたいという具体的な実践の意欲付けにつなげていきたい。

### 3 事前指導における他教科・領域、体験活動との関連

- 国語「カレーライス」(4月)・・・「お父さんウィーク」で、ひろしの父親に対する心情の変化をとらえることができた。
- 道徳「鈴虫が鳴いた」(10月)・・・家族みんなが幸せに生活するためにはどんなことが大切かを考えることができた。
- 特別活動「修学旅行」(10月)・・・保護者のもとを離れて旅行することで、保護者への感謝の気持ちを持つことができた。

## 4 本時

### (1) ねらい

家族みんなの立場や気持ちを大切に、家族の一員として思いやり助け合って、明るい家庭を築いていこうとする心情を育てる。

### (2) 実際

過程	主な学習活動 主な発問と予想される反応	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ (○) 道徳性の把握 (【 】) 方法 (☆)
気付く	1 「家族がいてくれて良かったこと」と「家族との関係がうまくいかなかった経験やその理由」を発表し合い、両方を対比させながら学習問題を焦点化させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">家族と協力して明るい家庭にしていくには、どんな気持ちが大切だろう。</div>	5 ↓	○、家族の良さや家族との衝突場面を対比して問題意識を持たせるために、実態調査を一覧表にして提示し、そのときの気持ちや理由を想起させる。 <b>【道徳的心情の把握】 ☆発言、事前調査</b> ○ 資料に入る前に、主人公の表情を対比させた絵や船の挿絵から、主人公の心情や父の職業を自由に想像させる。

さ ぐ る	2 資料「はじめてのアンカー」を読み、「家族愛」にかかわる生き方について話し合う。	5 ↓	○ 資料に入りやすくするように録音 CD や場面絵を効果的に活用する。
見 付 け る	① 「今度だけはね、見に来てくれるの」と Vサインをしたとき、まきはどんなことを思ったか。 ・とてもうれしい。 ・ウキウキするな。 ・見に来てくれてありがたい。 ② 父が漁に出ることを知ったとき、まきはどんな気持ちになったのか。 ・お父さんのウソつき。大嫌い。 ・どうして仕事優先なの。 ・漁になんか行かないでよ。 ③ 祖母と話しているとき、まきの心はどうしてちくりと痛くなったのか。 ・自分のことしか考えていなかったから。 ・お父さんも行きたかったことに気付いたから。 ・お父さんの気持ちが分かったから。 ④ お天気人形をポケットに入れて、父を追いかけていったときのまきはどんな気持ちだったのか。 ・お父さん、気をつけて行ってきてね。 ・お父さんの気持ちも考えずに素直に「行ってらっしゃい」も言えずにごめんね。 ・私も精いっぱい頑張るからね。	3 ↓ 3 ↓ 10 ↓ 7	○ 初めて父が運動会に応援に来てくれるまきの喜びを、Vサインの動作化を取り入れながら共感させる。 ○ まきの気持ちを共感させるために、自分の体験と重ねつつ、書く活動を取り入れてこの時期特有の感情を表現させる。 ○ まきの心が痛くなった理由を考えることで、父親の立場や家計を支える漁師としての立場などを多面的に気付かせたい。そのために、グループでの話し合い活動を設定して、多様な考え方を交流させることで、まきと父親それぞれの葛藤をとらえさせる。 ○ 父親の立場や心情も考えた上で行動したまきが大切にした考えを共感させる。 <b>【道徳的判断力の把握】 ☆道徳ノート</b>
深 め る	3 学習したことを振り返り、明るい家庭を築くために大切にしたい気持ちについて考え、話し合う。	7 ↓	○ 導入時に提示した家族がいてくれて良かった経験から、家族の喜びが自分の喜びにもなるということに気付かせたい。その上で、これまでの自分を振り返り、自己内対話をしながら自分の考えをノートにまとめさせる。 <b>【道徳的实践意欲と態度の把握】 ☆道徳ノート</b>
見 通 す	4 保護者へ手紙を書いて、「家族みんなで明るい家庭を築きたい」という実践意欲を高める。	5 ↓	○ 本時の学習を振り返りながら、保護者へ手紙を書く。 <b>【道徳的实践意欲と態度の把握】 ☆表情観察</b>

## 5 事後指導及び変容の把握

- **持久走大会**（12月）・・・当日に応援に来てくださった保護者には感謝の気持ちを持たせ、来られなかった保護者の子どもには、自分の気持ちだけでなく、来たくても仕事などで来られなかった保護者の気持ちを考えることの大切さに気付かせる。**【道徳的判断力の把握】 ☆道徳ノート**、日記